

2022年度 上田市立第六中学校 自己評価シート(最終報告)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価					
敬・和・創	敬:人を敬い、人から信頼される生徒 和:人を認め思いやり、人と協力して活動する生徒 創:自ら工夫し、納得するまで追究し課題を解決していく生徒			(成果) ・職員アンケートで評価が高かった項目(特にあいさつ、楽しい学校づくり、わかりやすい授業づくりの3項目)は、生徒アンケートでも高い評価が見られた。職員が自信をもって実践していることは、生徒の前向きな姿勢につながっていると感じられる。多くの生徒が、大変落ち着いた雰囲気の中で生活することができている。 ・本校が伝統的に大切にしている合唱への取り組み、地域に開かれた学校づくりの2項目は、コロナ禍で特に大きな制限を受けてきた活動であるが、本年度は、3年ぶりに生徒・職員・保護者・地域による四者会議を行うことができた。また、全校での合唱発表会も工夫して実施することができ、アフターコロナを見据えた行事の在り方について、新たな提案ができた。					
	重点目標	1 (敬)	【生活習慣の確立】 さわやかな挨拶・心をこめた清掃・時を守る行動	(課題) ・本校には、中庭合唱、黄色いリボン運動等、伝統に行われている活動がある。しかし、年々その意味が薄れ、活動が形骸化しているものもあると思われる。これから何を大切にしていこうかということ、生徒の目線に立って話し合い、いい意味での活動の精選ができることよい。					
		2 (和)	【開かれた集団づくり】 合唱を通じた仲間づくり・仲間を思いやる行動・伝統の黄色いリボン運動	・家庭学習への支援・助言が十分でない傾向が見られる。生徒の主体的な学びにつながるような課題設定や見直しをもった学習の進め方について、職員間でも議論を深め、具体的な手立てを講じていけるとよい。					
		3 (創)	【前向きな学習への取り組み】 ねばり強く追究する姿・ICTを活用した、主体的・対話的で深い学び						
領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	今後の展望
生徒指導		規範意識の育成	学校は身だしなみや学校生活のルールについて粘り強く指導しているか	多くの生徒が落ち着いた雰囲気の中で生活している。教師による一方的な指導ではなく、生徒自身が考え、判断して行動する場面が増えている。		○			教師が指導する場面と生徒自身が考える場面について、職員間での意識統一を図りたい。
		素直さ・感謝の心を育てる	職員は、生徒の努力やがんばりを認め、あたたかい言葉がけをしているか	学校全体で多様性に寄り添う雰囲気が高まっている。多様な学びの場を保障することができた。	○				節目を大切に、活動のふり返りを丁寧に行い、自他の成長を実感するとともに、感謝の心を育む。
		開かれた学校・学級作り	職員は、学級や生徒の良さを認め合い、互いの考えを发表しあえる共感的な雰囲気づくりに取り組み、楽しく、和やかな学校づくりに努めているか	生徒同士の関わりを大切にされた対話的な活動を通じて、お互いを認め合う雰囲気が高まっている。			○		対話的な活動をさらに充実させ、風通しのよい雰囲気づくりを進めていく。お互いの良さに学び合う。
学習指導		分かる授業	職員は、本時の学習内容を生徒にはっきり伝え、発問や板書、教材の提示方法等を工夫しながら分かりやすい授業にしようとしているか	ICT機器を効果的に活用しながら、教師による教え込む授業から、生徒自身が学び取っていく授業への転換を意識して取り組むことができた。	○				各教科の実践から学び合い、より効果的なICT機器の活用方法を研究していく。
		集中して取り組む授業	職員は授業時間を守り、授業での追究方法を工夫し、一時間の授業に集中して取り組ませているか	各教科で学習問題や追究方法、手立てについて研究が進められ、授業改善につながった。			○		生徒が本時の学習の見直しを持ち、自ら学び取っていくような授業展開工夫していく。
		家庭学習への支援	職員は、教科の専門性を生かし、生徒が自己課題を明らかにし、家庭学習への見通しが持てるような助言をしているか	家庭学習への動機付けや具体的な助言を行う機会があまりなかった。				○	生徒から教科担当へ質問する場面を増やしていきたい。
		道徳性の涵養	学校では、生徒が自己の生き方や夢の実現について考えたり学んだりする機会をつくりだしているか	各学年の実態に即した進路学習を進めることができた。				○	
教育課程		歌声の響く学校作り	職員は合唱に親しみ、歌う喜びを実感できる生徒を育てているか	参集する形での合唱活動が少しずつ再開され、合唱で音を重ねる楽しさを感じている。			○		先輩の歌声を後輩が聞く場面をつくり出し、伝統である歌声が響く学校づくりを進めたい。
		不登校・不応生生徒への支援	職員は生徒の困り感や特性を理解し、一人一人に寄り添って支援をしているか	(校内フリースクール)サポートルームの開設によって、学校全体が一人一人に寄り添った支援を目指そうとする雰囲気になってきた。	○				個に応じた多様な学びを充実できるように環境整備を進めていく。
		人権感覚の育成	学校では、黄色いリボン運動・人権教育等を通して、生徒の人権感覚が高まるよう指導をしているか	黄色いリボン運動や各学年に応じた人権教育を通して、生徒の人権感覚が高まるよう取り組んでいる。				○	「黄色いリボン宣言」の意義を全校で共有しながら、人権教育を進めていく。
		生徒会活動	学校は生徒主体の生徒会活動となるように十分に支援しているか	当番活動等、自分の仕事に責任を持って取り組む生徒が多い。より主体的な活動にしていこうと話し合いや準備の時間確保が難しい。				○	
学校運営	地域との連携	愛郷心の育成	学校では、地域への愛着を高め、地域との連携を深めるための工夫をしているか	本年度は3年ぶりに四者会議を実施することができたが、地域との連携はコロナ前に比べると弱くなっている。				○	本年度の形をベースにしながら、アフターコロナを見据えた地域連携の在り方を模索していきたい。
		地域から信頼を得る	学校は、学校便り、学年・学級便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を丁寧に知らせ、学校への理解を深めてもらおうとしているか	タイムリー情報発信を心がけながら、学校の様子について理解してもらえるよう努めている。				○	ホームページでの情報発信を効果的に行っている。引き続き継続していきたい。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった